

高松市立山田中学校 道徳便り 2023



12月に入って気温がぐっと下がり、冬の訪れを感じるようになりました。今年も残すところあとわずかですね。

さて、11月は、今月行われる人権集会に向けて学年ごとに様々な学習をしましたが、道徳科でも、道徳の週のテーマを「**緑（人権）**」として学習しました。山田中学校では「緑」を「いのち」の色としています。生徒は「いのち」についての資料を読んで、考えを深めたり違った視点から考えたりしました。様々な考えに触れ、その中で誰もがよりよい生き方を見つけていってほしいと思います。

1年生 「捨てられた悲しみ」

犬猫に関する環境省の調査資料や日本動物愛護協会のペット飼育に関するポスター、猫の殺処分を行う施設の職員の仕事を追った文章と写真を通して、生命を尊ぶことについて考えました。

- 本当に自分に飼えるのか、飼う前にしっかり考えなければいけない。今飼っている猫やウサギを最後まで見届ける！そして飼っている動物たちにちゃんと向き合っていく！
- 人の都合で殺される動物がいることがすごく悲しいです。軽い気持ちで飼って自分の都合で捨てる無責任な人に、捨てられた犬・猫たちの気持ちを本当に考えてほしい。
- これから生き物を飼うことがあるなら、どんな理由があっても最後まで責任を持ちたい。飼い主が責任を持って飼うことで、助けられる命がたくさんある。
- 大事に最後まで責任と愛を持って育てたい。罪もない命が奪われていくのは耐えられないし、犬や猫がかわいそうだと思う。
- 私は猫を2匹飼っています。そのうち1匹は譲渡会で見つけた猫です。最後まで面倒を見られるか、覚悟と責任を持って飼うことが大切だと思います。

切り取り線

ご意見欄

お名前



2年生 「つながる命」



脳死となった女児の両親が、女児の臓器提供を決断したことを取り上げた新聞記事や、臓器提供を受ける人やその家族の思いを考えることを通して、自分の「命」はどういうものかについて考えました。

- 命は1つしかないし、人生も1度きりしかないから、楽しんで毎日を大切に生きていし、死んだあとでも人の役に立てるなら、人の役に立ちたいです。ただ、自分が移植が必要になったら、他の人に生きてほしいから移植の希望はしないと思います。
- 命は誰もが1つしか持っていない。もし移植をすると命が助かる人もいれば、助からずにいる人もいますので、人が支えあって今の命があるのだと思いました。
- 命とは何よりも大事なことで、人は人を支えあって生きているんだなと思いました。
- 私が思う命とは、命を繋いでいくことだと思います。命がたくさん繋がりあって今の私があるからです。世の中にはたくさんの素晴らしいものがあり、自分のあり方を知るのも生きるということだと思います。
- 実際に提供をして、提供を受ける人がいるというのが、すごいなと思いました。一人でも多くの命が繋がるのが良いと思いました。

3年生 「命の選択」



肺がんになった祖父の意思に反して延命措置をすることについて葛藤する家族の姿を描いた文章と、尊厳死に対する複数の立場からの新聞投稿を通して、命の尊さについて様々な面から考えました。

- 家族の人が病気で苦しんでいるときに、本人の気持ちを尊重できるかは分からないけど、できるだけその人の願いを受け入れることができたらいいなと思いました。
- もし私が家族の命の選択する立場になったらどうするんだろうと、本当に想像ができません。でも家族がいなくなって、一人で生きていけるのかなと怖いなと思います。命の選択をするときは、家族全員で決めたいです。
- 人の命は他人がどうこうできるものではなく、本人が決めること。だけど、延命などの決断を迫られたときは、両方の意見を尊重できるようにしたい。
- 私が「僕」のような状況になったら、長く生きてほしいけど、それはおじいちゃんの人生だから、おじいちゃんのことを尊重したいと思う。私の決断で一人の最後の人生が決まってしまうのはとても怖いことだと思った。だからこそ、家族で話し合うのは、大切だと思った。
- みんなの意見を見たところ、尊重できるを選んだ人が多くて驚きました。自分はそのような場面が来てしまったとき、おそらく決断できず、自分の意思だけを尊重してしまうけど、みんなはそんなときでも祖父の意思を尊重できる勇気と優しさがあることを分かって、感心し尊敬しました。
- どっちが命に対して重い軽いではなく、両方の意見があってもよいと思いました。決める本人を尊重するのでもいいと思いました。一日でも生きてほしいと本人に伝えるのもいいけど、お互いに向き合い、しっかり考え合うことが大切だと思いました。